

メアリー・コンスタブルの 100 歳のお誕生日

先週、メアリーの 100 歳のお誕生日で、ご家族や小教区の方々とすばらしいお祝いをしました。皆さまのうち何人かの方もいらっしやいました。同じ言葉や話を繰り返し聞くことになるかも知れないこととお断りしておきます。

セーラとアーサー・コンスタブルが 100 年前のこの日に、最初の赤ちゃんメアリー・アリス・ドリーンを迎えたときの喜びを想像してみてください。皆さんが信じるかどうかは別として、メアリーはハリウッド私立病院で生まれたのです。メアリーの名前は、生まれた時から光輝く運命になっていたのです！

彼女の家族ではドリーンと呼ばれていたメアリーが生まれたのは第一次世界大戦直後の 1919 年でした。彼女は 1920 年代には幼児でしたが（もしも彼女が大人だったならば）彼女の活発なエネルギーを『狂騒の 20 年代』に貢献していたことでしょう！

家族は彼女が善きサマリア人修道会による教育を修了後、モルヤに引っ越しました。卒業後、メアリーは 3~4 年、教生の先生、店員、事務員のお手伝いとして働きスキルを身に付け、将来の多様な奉仕職で良く仕えることができるようになったのです。メアリーは 1942 年に善きサマリア人修道会に入会し、シスター・メアリー・ジョンと名づけられました。

彼女は幼児教育の先生となり、マリックビル、クエンアンビヤン、バルメインの学校で教鞭をとりましたが、特にバルメインの学校では何度も何度も戻ってくるように呼ばれました。

メアリーは第一世界大戦直後に生まれたと申しました。第二次世界大戦後の時代は、新しい誕生、新しい生活に生まれ変わりました。マザー・オリベリオが、戦後まだまだ揺らいでいた日本へ行く有志を募りました。当時のことを思い浮かべてみてください。戦争中に日本人のせいで、苦しみ、戦没した兄弟や親戚のいるシスターたちの多数の人にとって、それは大変大きな要求だったに違いありません。

メアリーはマザー・オリベリオに宛てた手紙に次のように書いています：

親愛なるマザーへ

たくさんのお祈りをして十分考えた結果、私は日本へ行くことを志願すべきだと感じます。正直なところ、私の貧弱な奉仕を捧げることは、おこがましく感じると認めざるを得ません。というのも神様は私に「10の才能」をくださってはいないと十分理解していますが、もし私が選ばれば、最善を尽くすことをお約束します。

私たちは、メアリーはたくさん才能をもっている人のひとりで、いつも彼女は最善を尽くす女性だと知っております。メアリーは選ばれて日本に行くことになりました。彼女は5人出発した中でも最年少で30歳にさえ達していませんでした。

それは決してロマンティックな冒険ではありませんでした。シスター・クレメントは、メアリーと他のシスターたちが日本への途中、最初に寄港したのは香港の陸地で、その時そこで巻き込まれてしまったことについて話してくれました。

…彼女たちは戦争が終わってわずか3年で、敵の占拠地と捕虜収容所という世界に直面したのです。戦後の傷跡は一目瞭然で、港湾には沈没した船の残骸があり、海岸線にも破壊された建物が並び、... 彼女たちは北志那の共産主義による支配から逃れてきた難民に会いました。彼らはやがて香港は共産主義軍によって侵略されるかもしれないという恐怖に傾いていました。オーストラリア人の善きサマリア人の教育が始まったのです。

歴史は繰り返すかも知れませんが、この一節を読んだのです。

メアリーは言語を学び始め、その後長崎のカニシウスに加わり、貧しい原爆の犠牲者のための無料診療所の仕事をしました。メアリーは佐世保市の「桜の聖母幼稚園」の園長になりました。彼女は森まさ子さんの家族など多くの人と友だちになりました。まだ日本に駐屯していたアメリカ軍の人とも親しくなりました。彼女は「アメリカ人」に弱いところがありました。シスター・メアリー・ジョンの驚くほどの助けと友情に対して感謝するというアメリカ人の従軍司祭からの手紙があります。

メアリーが日本にいた時期、昨日94歳の若さで帰天されたクリステイナ・マッケナも日本にいました。

メアリーは15年後に何の予告も説明もなくオーストラリアへ帰らされた時にはショックを受け、悲しみました。日本に滞在し続けることを希望していたことでしょう。でも彼女は落ち込むことはありませんでした。彼女は信じがたいほど嬉々としてナラビーンで、またその後は他の学校で教鞭に打ち込みました。

先週、私は元ナラビーンの生徒であった卒業生と話しました。メアリーは、“Go bash ‘em” 「ゴー バッシュェム（殴りつけて）」と叫んでいる観客と並んで走っていたそうです。そして修道者らしくなく、「どういう意味？私はただスター選手のクレイグ・バッシュェムを応援していただけなの！」と言ったそうです。

10年後、メアリーはまたキャリア変更で、その後約50年近くも社会福祉の分野で働き始めました。私は1988年～1992年の間のモートベイ、バルメイン・コミュニティの **Book of Happening**（できごとの記録）を読みました。メアリーは、1991年にこの共同体に加わりました。この共同体 - マリー・マックマーン、カーメル・マホニー、ジョシー・マッガリ、メアリー・コンスタブル - は実に素晴らしいことを行いました。メアリーはライフライン、ビギニングの経験、片親などのプログラムに関わりました。バルメインのオープンハウス・ホスピタリティは今年まで続いていました。

私は1970年代にバルメインでメアリーと共に暮らしました。ジェイン・ストロートの大きな修道院を閉鎖した時、彼女は私の会長でした。メアリーは普通ではなく特別な人でした。彼女のエネルギー。一生懸命に働くことは、決して人を殺しはしないということの生きた証人です。

その他メアリーがどんな人かと言えば：

- 積極的で、情熱的、引っ込み思案なことは全くない
- しっかりとした見解をもっている - 政治面でも宗教面でも
- 常に手を汚すことを厭わず、実行する人
- メアリーはニーズを見ると対応しました
- 新しいことに挑戦する冒険心と起業家的なスキルの持ち主。バス旅行 - 州外へ、そしてNSW州のどこへでも！

メアリーは創業者、ジョン・ビード・ポールディングに特別な愛をもっていました。ポールディングの言葉で最もよく引用される言葉

の一つ「キリストの慈しみの奉仕者となる、キリストの慈悲の心のメッセンジャーとなる」ように私たちは呼びかけられています。この呼びかけにメアリーはいかにすばらしく応えたことでしょう。ポールディングのように彼女は常に宣教に熱意をいただいていた。彼女は宣教の心と宣教のための心を備えて生まれました。

メアリー、100歳のお誕生日をここで一緒にお祝いできるのはとてもすばらしいことです。まるで死を伴わない葬儀の追悼の言葉のようです！

メアリー、お誕生日おめでとうございます。おめでとうございます。私たちはあなたを誇りに思います。そしてあなたを愛しています。